

## 第3回 本明川ダム建設事業 環境保全検討委員会 議事要旨

日時：令和2年3月5日（木）

令和2年2月13日（木）～令和2年2月21日（金）・・・①（委員会開催前のヒアリング）

※第3回環境保全検討委員会は、新型コロナウイルス対策に伴い中止となったため、①委員会開催前のヒアリング内容及び意見を踏まえた委員会資料配付による意見聴取にかえて委員会とした。

### 事務局からの説明

- ・現時点の事業進捗、本事業に係る環境保全の取り組み状況、令和元年度の事後調査報告書の内容及び令和2年度の事後調査計画書の内容について報告した。

### 主な議事

#### ○環境保全の取り組み状況について

##### 【騒音】

- ・監視の基準値以下であっても、現在行っている事業者としての騒音低減の取り組みを継続し、地域とのコミュニケーションを密にとりながら工事を進めてほしい。

##### 【水質】

- ・汚濁流出の違いに及ぼす流域の変化を知るうえで、出水による負荷流出形態を表すSS比負荷量と比流量との関係を、出水毎に比較するのは有効なことである。

##### 【植物】

- ・今年度のキンランの移植に立会い、移植手法として適切な措置がとられていたが、本種は移植の成功率が低い種であり、次年度のモニタリングが重要である。

##### 【動物】

- ・ニホンアカガエルやカスミサンショウウオの移植地は、傾斜が緩やかで休耕田等の止水環境が保たれている場所を選定すると良い。また、生息地と移植地間の距離は可能な限り近いことが望ましい。
- ・カジカ中卵型の移植地について、現時点では生息地としての適性があり、令和元年度もそれが継続していると考えられる。

##### 【生態系】

- ・サンバの繁殖の保全のために事業地周辺で講じられた環境保全措置は問題ない。

##### 【湿地・草地環境の整備】

- ・ビオトープの管理作業は地元住民との協力が必要不可欠で、湿地環境を維持するためには人の手を継続的に入れることが重要である。地域との連携も必要であろう。

##### 【景観】

- ・森林表土を利用した法面緑化について、1年目はセイタカアワダチソウが侵入していないが、今後侵入して繁茂する可能性がある。先駆性の樹木も生えているようなので、これらが早期に生長することを期待したい。
- ・樹木は土壌中に根を張ることで、斜面の崩壊を防ぐ役割を果たしており、胴切りで樹木を残存させることは、そういった効果も期待できると考えられる。

#### ○環境学習会について

- ・今後も本明川ダムの環境学習会に協力することは可能であるため相談して欲しい。